

【 新作の一部を先行紹介&展覧会オリジナルグッズ初公開 】

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館



大竹伸朗《網膜／碧放射》1989-2024年 ©Shinro Ohtake Photo by Shimpei Yamagami

大竹伸朗展 網膜
2025年8月1日(金)～11月24日(月)

展覧会
名
期
休館日
会場

大竹伸朗展 網膜

2025年8月1日(金)～11月24日(月・休)

月曜日(ただし8月11日、9月15日、10月13日、11月3日、11月24日は開館)、9月16日(火)、10月14日(火)、11月4日(火)

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 3階展示室C、2階展示室A、1階エントランス

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 / 公益財団法人ミモカ美術振興財団

担当キュレーター：中田耕市、古野華奈子、松村円 広報担当：佐伯美帆、谷村無生

〒763-0022 香川県丸亀市浜町80-1

TEL 0877-24-7755 FAX 0877-24-7766

E-MAIL press@mimoca.jp URL www.mimoca.jp

大竹伸朗展
網膜



—— 30年以上の時間が蓄積された新作の数々

1988年、大竹伸朗は露光確認用に使用された後、廃棄されたポラロイド・フィルムを入手したことがきっかけとなり、〈網膜〉シリーズの着想を得て、1989年から1990年代初頭にかけて、〈網膜〉シリーズの制作に集中的に取り組みました。その後も断続的にこのシリーズの制作を続けてきましたが、大竹はアトリエに30年以上保管してきたフィルムを用いて、本展のために新たな大型の〈網膜〉12点を制作しました。

ここでは、2024年12月にMIMOCA館内で制作を経て完成した、新作〈網膜〉の一部をご紹介します。

01



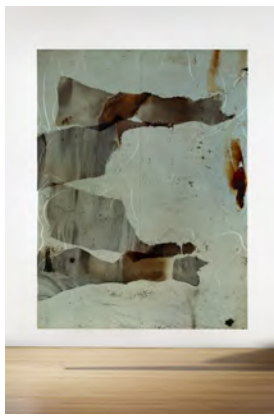
02



03



04



05



06



07



08



01 大竹伸朗《網膜／漠悸》1989-2024年

02 大竹伸朗《網膜／門の前》1989-2024年

03 大竹伸朗《網膜／十五重塔》1989-2024年

04 大竹伸朗《網膜／段滝》1989-2024年

05 大竹伸朗《網膜／幕間》1989-2024年

06 大竹伸朗《網膜／グリッジ・サーフ》1989-2024年

07 大竹伸朗《網膜／発光ウィルス》1989-2024年

08 大竹伸朗《網膜／闇港》1989-2024年

すべて ©Shinro Ohtake Photo by Shimpei Yamagami

大竹伸朗展
網膜



—— オリジナルグッズ

「大竹伸朗展 網膜」限定オリジナルグッズ

〈網膜〉の世界を身に着け、持ち歩く、特別なグッズを展開

本展にあわせてデザインされた限定オリジナルグッズが登場します。本展タイトルのロゴタイプや大竹のドローイングを再構成したTシャツ、今回の核である〈網膜〉を大胆にカットアウトした靴下やトートバッグなど、〈網膜〉の世界を身につけて楽しめるアイテムが揃います。さらに、大竹自身が描き下ろした当館オリジナルキャラクター「イノカメグマ」をあしらったタオルや、本展のビジュアルを広く手がけたデザイナー・町口寛^{まちぐちさとし}によってアレンジが加えられた展覧会ポスターもご用意しています。

〈網膜〉をもとに制作されたグッズを日常に取り入れることで、本展の記憶をより深く刻むことができるでしょう。



販売日について

販売開始日：8月1日(金)から

販売場所：当館1階ミュージアムショップ

品目：Tシャツ(2種、サイズ展開：M/L/XL)、靴下(3柄)、タオル、展覧会ポスター

トートバッグは会期中に販売予定

販売価格：未定

最新情報は、Vol.3のプレスリリースまたは当館WEBサイト・SNSにてお知らせします。

「大竹伸朗展 網膜」カタログ

大竹伸朗のロングインタビュー、〈網膜〉シリーズの新作や未発表作品の図版を収録

本展会期中に、大竹へのロングインタビュー、〈網膜〉シリーズの新作や未発表作品の図版、さらに気鋭の写真家・やまがみしんべい^{やまがみしんべい}による撮り下ろしのインスタレーションビューを収録した「大竹伸朗展 網膜」のカタログを販売いたします。本展の展示構成をもとに書籍用に再構成される本書は、単なる記録にとどまらず、〈網膜〉を手がかりに大竹の作品世界へ深く潜り込むための必須の一冊となるでしょう。

タイトル：「大竹伸朗展 網膜(仮称)」

出版社：月曜社

造本：町口寛(Satoshi Machiguchi+MATCH&Co.)

大竹伸朗展
網膜



—— 関連プログラム

オープニング・トーク

出品作家・大竹伸朗と本展担当キュレーター・中田耕市によるトークを開催します。

講師：大竹伸朗(出品作家)

聞き手：中田耕市(当館副館長兼チーフ・キュレーター)

日時：2025年8月2日(土) 16:00ー17:30

会場：2階ミュージアムホール

料金：無料

定員：150名(当日11:00より会場前にて整理券を発行します)

備考：当日はナイト・ミュージアム(夜間特別開館)実施のため、20:00まで本展及び常設展をご覧いただけます。

ナイト・ミュージアム〈夜間特別開館〉

通常18:00閉館のところ、20:00まで開館時間を延長します。(入館は19:30まで)

実施日：2025年8月2日(土)、8月23日(土)、10月4日(土)、11月8日(土)

キュレーター・トーク

本展担当キュレーター(中田耕市、古野華奈子、松村円)が展示室で見どころをお話しします。

日時：2025年8月3日(日)、9月7日(日)、10月5日(日)、11月2日(日) 各日14:00ー

参加料：無料(別途、本展観覧券が必要です)、申込不要

親子でMIMOCAの日

高校生以下または18歳未満の観覧者1名につき、同伴者2名まで観覧無料となります。

日時：2025年10月18日(土)、19日(日) 10:00ー18:00(入館は17:30まで)

開館記念日 MIMOCA'S BIRTHDAY

毎年、開館記念日は全館入場無料とし、日頃から支えてくださっている皆さまに感謝の気持ちをこめて、楽しいイベントを開催しています。今年も1日限りで、すべての展覧会を無料でご覧いただけます。

実施日：2025年11月23日(日・祝)

※その他のプログラムは決まり次第、当館WEBサイト等でお知らせいたします。

—— プレスプレビュー

本展開催に先立ち、**2025年7月31日(木)**にプレスプレビューを実施いたします。**出品作家・大竹伸朗**が、展覧会会場を回りながら作品解説を行います。

時間	内容
12:00	開場 受付(1階エントランスからお入りください)、自由観覧
13:00	プレスプレビュー 開始
13:00 - 14:00	担当キュレーターによる挨拶・作家紹介、作品解説ツアー
14:00 - 14:30	囲み取材、撮影
14:30	プレスプレビュー 終了
15:00	個別取材 ＊個別取材をご希望の方は別途ご連絡ください

—— プレスプレビューのお申し込みについて

お申し込み情報	1. 参加者氏名(人数分) 2. ご所属名 3. お電話番号 4. 個別取材ご希望の有無
お申し込み方法	上記内容を記入の上、 7月25日(金)までにpress@mimoca.jp宛へメール をお送りください。受付後、詳細を担当者からお返事いたします。個別取材のお申し込みが多い場合は各媒体に取材時間を設けさせていただきます。あらかじめご了承ください。

会期中のご取材について

7月31日(木)のプレスプレビューにご出席になれない場合は、会期中に担当キュレーターへのご取材が可能です。事前にご連絡の上お越しく下さい。また、作家への個別取材は8月1日(金)、8月2日(土)の2日間が可能です。ご希望がございましたら、事前にpress@mimoca.jp(広報)までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

開催概要

展 覧 会 名	大竹伸朗展 網膜
主 催	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団、「瀬戸芸美術館連携」プロジェクト実行委員会(事務局：公益財団法人 福武財団)、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁  Setouchi Art Museum Link 「瀬戸芸美術館連携」プロジェクト  JAPAN CULTURAL EXPO 2020 令和7年度日本博2.0事業(委託型)
会 場	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 3階展示室C、2階展示室A、1階エントランス
会 期	2025年8月1日(金)－11月24日(月・休)
開 館 時 間	10:00－18:00(入館は17:30まで)
休 館 日	月曜日(ただし8月11日、9月15日、10月13日、11月3日、11月24日は開館) 9月16日(火)、10月14日(火)、11月4日(火)
観 覧 料	一般 1,500円(団体割引1,200円、市民割900円) 大学生 1,000円(団体割引800円、市民割600円) 高校生以下または18歳未満・丸亀市内に在住の65歳以上・各種障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料 ＊同時開催常設展「猪熊弦一郎展 Since1955」観覧料を含みます。 ＊団体割引は20名以上の団体が対象です。 ＊市民割は丸亀市民が対象です。チケットご購入時に証明する書類(運転免許証、保険証など)のご提示が必要となります。団体割引を含み、他の割引との併用は出来ません。 ＊11月23日(日・祝)は開館記念日のため観覧料無料。

同時開催の常設展

「猪熊弦一郎展 Since1955」

会期：2025年8月1日(金)－11月24日(月・休)

次回企画展のお知らせ

「ジャネット・カーディフ 40声のモテット(仮称)」

「猪熊弦一郎展」

会期：2025年12月13日(土)－2026年2月15日(日)

大竹伸朗展
網膜



—— 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 (MIMOCA) について

1991 年開館、30 年を超える活動

1991 年 11 月 23 日、JR 丸亀駅前に開館。同時代の新しい表現を積極的に紹介する「現代美術館」を望んだ猪熊弦一郎の考えを受け継ぎ、猪熊作品を中心とした常設展、現代美術にフォーカスした企画展、子どものためのワークショップなど、多彩なプログラムを展開しています。

さらに、当館は猪熊弦一郎の遺した絵画やドローイングなど作品約 2 万点を所蔵しています。猪熊が「対話彫刻」と名付けた小さな作品群、猪熊夫妻が各地で収集しその生活を彩っていたコレクションなどの多数の資料とともに、常設展や企画展を通して、猪熊の活動を深く、広く紹介しています。

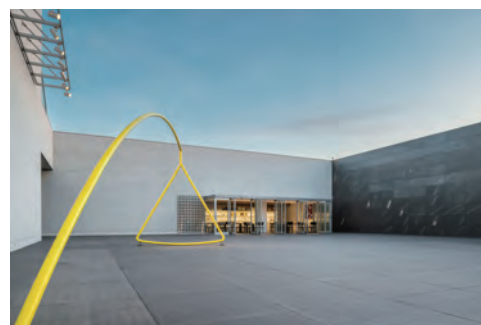


Photo by Yoshiro Masuda

現代美術に特化した美術館として

現代美術を中心とし、企画展として国内外のアーティストの活動を展覧。これまでにヤン・ファープル、マリーナ・アブラモヴィッチ、マルレーネ・デュマス、エルネスト・ネット、杉本博司、塩田千春、ホンマタカシ、石内都らの個展を開催する一方、金氏徹平、小金沢健人、志賀理江子、中園孔二ら気鋭のアーティストの紹介にも積極的に取り組み、近年では若手作家を対象とした公募展「MIMOCA EYE」を立ち上げました。また、同時代のクリエイティブな表現にも着目し、ファッションやファニチャーといったデザイン、現代建築にも拡張しています。

谷口吉生の設計による美しい建築

設計は、数々の美術館建築を手がけ、高い評価を受ける谷口吉生。猪熊との対話によって、アーティストと建築家の理念が細部に至るまで具現化されています。

猪熊弦一郎の巨大な壁画《創造の広場》が眼を引く伸びやかなファサードは、駅前広場と建築をゆるやかに結びつけ、館内に入ると自然光をふんだんに取り込んだ、開放的な空間が広がります。2 階には対照的なプロポーションをもつ 2 つの展示室があり、3 階の天井高約 7m の豊かなスケール感をもつ展示室へと続きます。

さらに、正面左側の大階段はアートへのさまざまなアプローチを可能にするパブリックな空間へと接続しています。2 階のアートセンターには、ライブラリー、ホール、スタジオが備わり、3 階最奥部にあるカスケードブラザとカフェも来館者に心地よい時間を提供します。

【アクセス】 JR 丸亀駅南口より徒歩 1 分

